

MR02-K06 Leg2 観測航海の概要

トライトンブイ	: 設置 8ヶ所
トライトンブイ	: 回収 8ヶ所
トライトンブイ	: 点検 8ヶ所
セディメント係留	: 回収 1ヶ所
CTD	: 10カ所
XCTD	: 30キャスト
海上気象観測	: 連続
船舶搭載ADCP	: 連続
表層水温塩分	: 連続

その他の観測も、順調に行った。詳細は、クルーズレポートを参照。

観測航海時の海況:

MR02-K06(レグ2)は、2002年に起こったエル・ニーニョ現象の成熟期に観測を行っている。TAO/TRITONブイ網による観測データからは、西太平洋域で2001年の秋から様々な断続的な西風のバーストが起こっており、2001年12月のかなり大きな西風バーストを境に、西太平洋から中央太平洋域に西風バースト域が移動していることがわかっている。また、2002年5月以降は、暖水プールが中央太平洋に東進し、引き続き発生している西風バーストにより8月にはエル・ニーニョの発生が宣言されている。観測を行った2002年12月には、東太平洋域の海面水温は、平年より2℃以上高い状態が観測されている。TAO/TRITONブイ網により2002年エル・ニーニョの確実な監視が行われた。

クルーズで観測されたデータも、エル・ニーニョの成熟期に見られる西太平洋の状況が得られている。温度躍層は浅くなっており、暖水プールの移動により海洋の蓄熱が失われていることがXCTDでも確認された。海上風は赤道付近では弱いながらも東向きで、大気対流域が日付変更線にありそれに吹き込んでいることが示された。海洋表層の流れも東向きで、暖水が東に移流されていることが観測された。2003年1月6日以降、5N156Eのトライトンブイの回収を試みたが、日付変更線付近の暖水プール上空で発達した対流活動の活発化に伴い北東貿易風の強化が見られ、1週間以上にわたり、風速10m/s以上、波高2.5m以上が継続的に観測され、そのため、5N156Eでのトライトンブイの回収作業および8N156Eでの設置・回収作業が出来なかった。